伝える

東日本大震災の直後は、携帯電話の通話が一時中断、携帯メールはアクセスが集中し、送信後から届くまで数十時間を要するなど通信網が「まひ」しました。そんな中、家族の安否や避難先をどう伝えるか、あらかじめ家族で話し合いましょう。

災 害用伝言ダイヤル（171）を活用

地震などの災害発生時に、被災地への通信が増加し、電話がつながりにくい状況になった場合に、安否情報を録音し、伝える（共有する）ことができる声の伝言板です。

171 → 1 録音 / 2 再生 → 0××××××××××（電話番号を入力）→ 録音（30 秒） / 聞く

録音時間	1 伝言あたり 30 秒以内
保存期間	災害伝言ダイヤル運用期間終了まで
登録可能件数	1 ～ 20 件
使用可能電話	固定電話、携帯電話、公衆電話、PHS、IP 電話

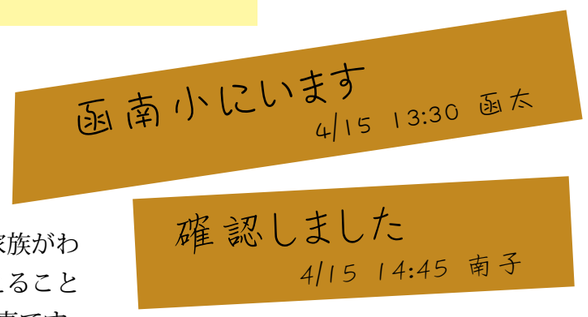
携 帯電話の災害用伝言板を活用

地震などの災害発生時に、被災や避難の状況を登録・確認することができます。また、伝言を登録したことを特定の人にメールで伝えることや登録された伝言を携帯電話の番号で検索することも可能です。

登録内容	「無事です」「被害があります」「自宅にいます」「避難所にいます」から選択。また、100 文字までのコメントが入力可能。
保存期間	災害でのサービスを終了するまで
登録可能件数	10 件（10 件を超えた場合は古いものから削除）
登録可能番号	携帯電話の番号

メ モ・貼り紙で内容を伝える

紙やガムテープに伝えたいことを記入し、家族がわかるところに貼ることで、被害や避難先を伝えることができます。内容を見たら返事を書くことも大事です。



▲ガムテープを伝言として利用

助け合う

72 時間の壁が生死を分ける

▼72時間以内の救出で命を救う

生き埋めになった人の生存率は、72時間を超えると急激に下がると言われています。72時間は人間が飲まず、食わずで生き延びられる限界とされています。

阪神・淡路大震災では発生から3日（72時間）を境に助かった人が急減しました。

地震発生直後は、消防車や救急車などの緊急車両はすぐには来ないと考えてください。阪神・淡路大震災では、家族や近所の人で助け合い、多くの命が救われました。

隣 近所や隣組との助け合い

▼「共助」で互いに力をあわせる

「皆さんの隣に住んでいる人は知っていますか？」「面識はありますか？」

阪神・淡路大震災の直後、消防車や救急車が到着しない状況の中、建物から脱出できない人を救ったのは、自治会や消防団、隣組の人といった「近所の人」でした。

年齢層や誰が住んでいるか、それぞれの身体の状況などを把握している顔見知りの「近所の人」だからこそ救助できたと言われています。

1人でできる「自助」には限りがあります。近所とのつながりが軽薄している現在だからこそ、尊い命を守るために、地域とのコミュニティ「共助」について考えてみましょう。

函南町防災マップで確認を

今回の特集で掲載した内容の詳細は、「函南町防災マップ」に掲載しています。

防災マップは、災害時に「いつ」「どうやって」「どこへ」逃げるのか、皆さんに考えていただくための物です。

皆さんが、災害時に危険な場所、避難するルート、避難する場所などを調べて書き込み、マップを完成させてください。

毎年の防災訓練の日などに家族で見直し、確認を行いましょう。防災マップは総務課で配布しています。ご家庭にない人はご連絡ください。

▲配布している「函南町防災マップ」